

## 説教要旨「滅びの時、解放の時」



ルカによる福音書 21章20～28節

「軍隊に囲まれる」(20節) この言葉が今もまさに逼迫した現実のことである人々がおられることを思います。日本にいる私たちにとって、今のところ戦争は遠い国の話ですが、きっかけさえあればすぐにでも戦争が出来るようにと、着々と準備が進められているようで危機感を覚えます。太平洋戦争の末期、敗戦が決定的であるにも関わらず、本土決戦が叫ばれました。その背後には、大日本帝国は神の国であるから絶対に負けるはずがない、“神州不滅”という信仰があったといえます。

同じようなことがエルサレムの滅亡においても起っていました。紀元70年にエルサレムがローマの軍隊に包囲され、いよいよ陥落するという時にも、『神殿にいれば大丈夫だ』と人々を導き、その結果焼け落ちる神殿と共に多くのユダヤ人が死んだということも伝えられています。『神が味方だ』『この国が滅びることなどありえない』そう言って、彼らが拠り所にしていたものはもろくも崩れ去りました。

しかしイエス様は、そのときには「逃げなさい」(21節)と言われるのです。エルサレムも、神殿も、そして教会であっても、滅びて行くものなのだから、それにしがみついているのではなく、それらが滅びてもなお続いて行くこの世界を歩みなさい、と。

そして、イエス様はそのように、世の終わりはまだ来ない。と言われる一方で、本当の世の終わりについても言及されています。そのときには「太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂う。天体が揺り動かされる」

(25節) というのです。世の終わりは地上のどこにいてもそれとわかる仕方で来るのです。もはやその時には逃げ場などない。備えようがない。それが世の終わりです。もし『自分には“世の終わり”がいつ来るのか示された』などと言う人がいればそれは惑わす者です。一部の人間にしか感知できない“世の終わり”などは本物ではありません。イエス様が示しておられる“世の終わり”は、私たちを愛し、私たちの罪の贖いとして十字架にかかれた救い主が、私たちを解放するために来てくださるときなのです。

(2020・9・20 説教者：稲垣真実)